

【ビジョン】

ゴミを食べて生きていく

【30年後の理想像】

ゴミが減る。
ゴミ処理コストを削減することができ、ほかに予算を使える。
地域の一つの魅力としてPRできる。

重点政策①概要

食べられる容器の普及

【政策の目的】

食べれる容器を増やしプラスチックごみを減らす

【事業内容】

地域住民が作った商品(特産品など)の袋を自治体指定の食べられる(アイスのコーンのような)ものにする。

【費用】

5000000

重点政策②概要

ゴミは食べ物や！

【政策の目的】

商品の容器を食べられるもの（もしくは簡単に処理されるもの）にする

【事業内容】

まず、対象となる商品はお土産や特産品に限定する。
その商品を入れる容器は食べられる材料で作られ、無理であれば処理が簡単なものを使用する。

【費用】

10000000

重点政策③概要

ゴミ教育

【政策の目的】

政策2の実行の助けになるよう、子供に食べられる容器について教える。

【事業内容】

小中学校の給食などで実際に使ってみたり、ゴミが減ることによってどういった良い影響があるかなどを授業などで話したりする。

【費用】

10000000

チーム名

ゴミ愛好家

ビジョン

ゴミを食べて生きる

メンバー

大市康太 大矢将太郎

楠本惇起

30年後の理想のまち

【ビジョンが示す理想の状態】

みんなが積極的にゴミを愛し食べれる容器を食らうようなネバーランドとも言えるまち

【なぜ上の理想を実現したいのか？】

世界では食糧難で悩んでいる人もいるのにプラスチックゴミの処理に500億円もの費用がかけゴミを垂れ流し食料を無駄にしている現状が許せないため

現実のまち

【ビジョンと現状のギャップ】

現在、人々はネバーランドとはかけ離れ道にゴミは捨てられ食べれない容器がはびこっている

【現状が維持された場合の社会の姿】

ゴミを海や地下などに埋め環境を壊し生物は死に絶え今後の生まれてくる子供たちが使う資源がなくなっていく

重点政策①詳細

政策名 食べられる容器の普及

政策の概要

【政策の目的】

企業の協力を得るため

【誰のための政策か】

地域住民
環境

【政策を実施する主体】

自治体

【政策を実施する期間】

2029～2039

政策の詳細

【事業内容】 *政策を実行するための具体的方法

- ・地域住民が作った商品(特産品など)の袋を自治体指定の食べられる(アイスのコーンのような)ものにする。
- ・企業にも袋の統一の利点を理解してもらい、貢献度によって自治体が企業に補助金を出す。補助金はゴミ処理で浮いたお金からだす。
- ・袋の大量生産→ゴミの削減、処理費の削減→補助金の増加→企業の躍進、環境の保全
といった最強のサイクルを自治体と企業間でしっかりと連携して取り組む。
- ・「食べられる袋」を街の1つの特産品や、魅力としてPRし、街の活性化を促す。

【政策にかかる費用】

食べられる容器を作るための機械の導入費など、4千万

【政策による影響への対策】

地域住民が「食べられる容器」に対して抵抗感が出るという影響が考えられる。対策としては、チラシや説明会などを通して理解を深めてもらう。特産品としてPRする方法をどうするかという影響も考えられる。対策としては、地域の祭りなどで「食べられる容器」を使い、観光客などに知ってもらう。

重点政策②詳細

政策名 ゴミは食べ物や！

政策の概要

【政策の目的】
パッケージのごみを減らしていく

【誰のための政策か】
地域住民
環境
観光客

【政策を実施する主体】
自治体

【政策を実施する期間】
2029～2039

政策の詳細

【事業内容】 * 政策を実行するための具体的方法
まず、対象となる商品はお土産や特産品に限定する。
その商品を入れる容器は食べられる材料で作られ、無理であれば処理が簡単なものを使用する。（ポイ捨てしてもすぐに、動物や微生物に処理されるようなもの）
食べられる容器を使用する際には、衛生面を考慮し、その、容器に入れて商品棚に置いておくことはしない。試食品を置くなどして、購入の時にその場で容器に入れて手渡しする。
これで、ポイ捨てによる景観の悪化や川の汚染といった事態を防げる。お菓子などの空き容器のポイ捨てはあれど、食べ物そのものが捨てられる光景はあまり見ないことから、食べられるものはあまり外に捨てないと考えられる。この心理を利用し、ポイ捨てを減らすのがこの政策の目的である。食べられる材料を使えない場合は、別の材料で代替することになるが、その場合は簡単に水に溶ける素材などを利用する。

【政策にかかる費用】
食べられる容器を衛星的に保つための、アルコール消毒剤や、それに伴う人件費
一千万

【政策による影響への対策】
食べきれずに捨てた場合、分解されるまでの間に猫やカラスが寄ってくる→匂いのしない材料を使う

重点政策③詳細

政策名 ゴミの教育

政策の概要

【政策の目的】

新しい容器への理解を深める

【誰のための政策か】

地域住民

【政策を実施する主体】

自治体

【政策を実施する期間】

2029～2039

政策の詳細

【事業内容】 *政策を実行するための具体的方法

- ・小中学校の給食などで実際に使ってみたり、ゴミが減ることによってどういった良い影響があるかなどを授業などで話したりする。
- ・地域交流センターなどで食べられる容器などを使って行事などをしてに知ってもらう。
- ・前から行われている行事などでも使うことにして、観光客の方々にも知ってもらうようにする。
- ・パンフレットなどを駅や交流センターなどに置いていろいろな人に知ってもらうようにする。

【政策にかかる費用】

食べられる容器の普及をしてもらう人材の把握や教育をするための費用、1000万

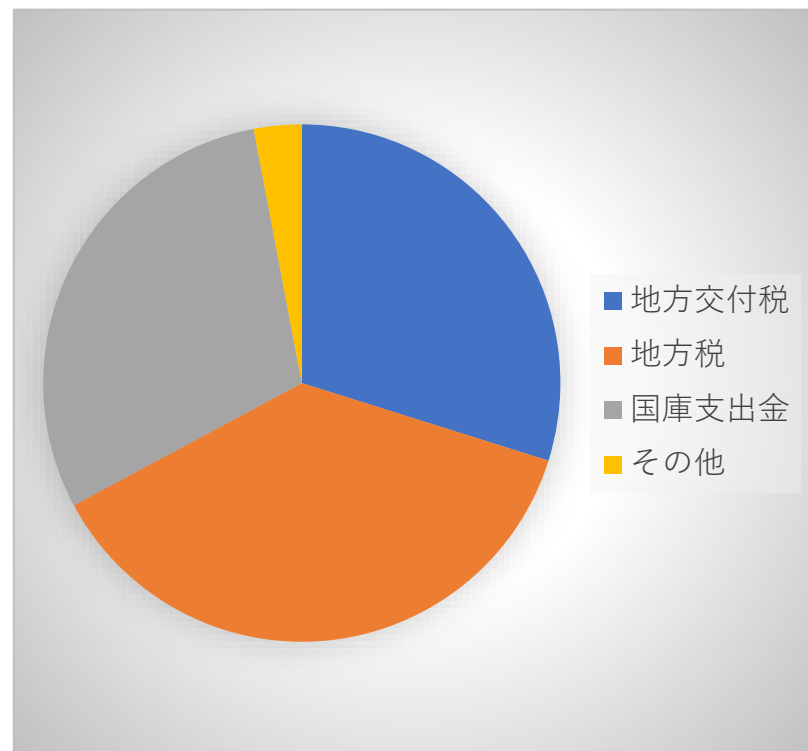
【政策による影響への対策】

衛生面で口に入れるのに抵抗のある人が出てくる。
→衛生管理を徹底し、資格のようなものもつくる

2029年の自治体予算

予算の算出の対策

歳入の部



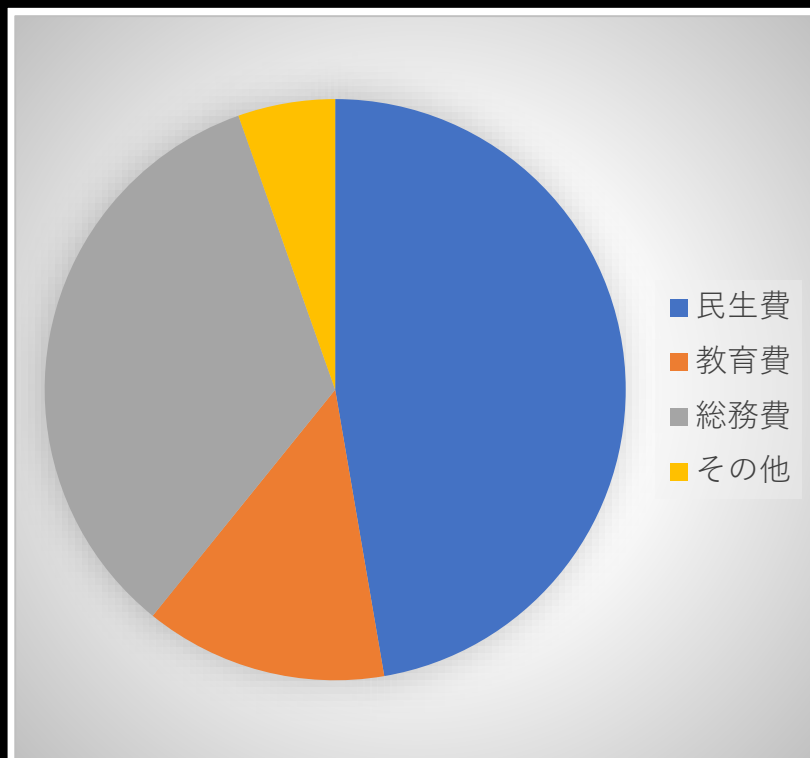
【重点政策予算の捻出方法】

小学校が減る傾向にあるので、その教育費を回す。
今、行われてる遺跡の発掘関係に使われてる補助金を回す。

【現在の自治体予算からの変更点とその理由】

教育費や遺跡の発掘に使われているお金を、容器代やその普及に使う。

歳出の部



【予算面の変革に伴う対策】

機械の導入に4千万必要になるが、一度導入すればその後は整備費などのみで済む。